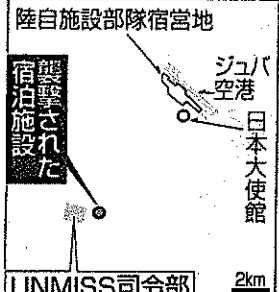
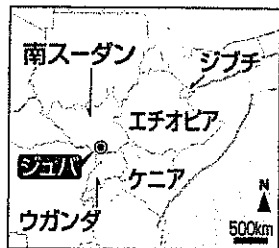


10/26  
10月26日

# 南スーダン P K O 救助要請応じず 7月部隊「危険」と判断か

【ヨハネスブルク共同】稲葉俊之】南スーダンの首都ジュバの民間宿泊施設が7月に襲撃された際、出動命令が下されたにもかかわらず、国連平和維持活動（PKO）の南スーダン派遣団（UNMISS）が



※防衛省資料やインターネット上の地図を基に作製

スーダン派遣団（UNMISS）が25日までに分かった。部隊の一部が危険な現場の状況を懸念したとみられる。国際社会で非難の声が上がり、国連の潘基文事務総長は経緯を調査する考えを表明した。

・ライツ・ウォッチによると、国際機関の職員ら約50人が滞在していた。政府軍兵士らが地元記者を殺害し、外国人の女性らを暴行。数時間にわたり略奪を続けた。現場から電話で国連に救助要請があったが、UNMISSは部隊を派遣しなかった。

米国の非政府組織（NGO）「紛争市民センター」は報告書で「UNMISS内部で出動命令が下されたが、中国とエチオピアの部隊が出動を拒んだ」と指摘。中国部隊は準備が整っていないことを理由に挙げたが、施設に向かう途中にも戦車や数百人の政府軍兵士がいたため、出動は危険と判断したもようだ。

国際人権団体アムネスティ・インターナショナルは25日「市民が殺されるのを傍観した」とUNMISSの失態を非難。米国のパワー国連大使も「PKO要員は救助要請に応える能力がなかったか、その意志がなかった」と問題視した。

南スーダン政府はUNMISSが反政府側を支援しているとの疑念を持っている。このため、UNMISSは政府から活動を妨害されており、これが失態の遠因になったとの見方もある。